

平成17年9月6日大水害

あれから10年

>5<

教訓は生かせるか：

森北佳昭氏 基調講演
これからの防災・減災・水害・土砂災害を中心として



五ヶ瀬川の現況施設は激特事業で20分の1（20年に1度の確率で起きる規模の洪水に耐えられる）の安全度で、将来的には100分の1まで高める施設計画を立てています。そこまでは施設で着実に対応しますが、それ以上回る外力に対してはハードだけでなくソフトを含めた整備を行って

いきます。

さらにそれを上回る災害規模の外力も考えておかねければなりません。例えば確率1000分の1の洪水でも、少なくとも命は守り壊滅的な被害を回避するという方策をあらかじめ考えておく必要があります。

今後は想定しうる最

最大クラスの現象、被害は

皆さんも日ごろから心づもりを

大規模の雨を見越し、それぞれの規模での浸水想定をまとめていくことにしています。単に浸水する範囲だけではなく、▽床上浸水する確率がどこまで高いのか▽軒下まで浸水するのどこまでなのか▽氾濫して洪水が家屋を破壊する危険性が高い区域がどこなのかといったさまざまなリスクをきめ細かく提供していくような取り組みがなされていきます。

洪水や高潮なども含め最大クラスでどんな現象、被害になるのかを想定した対策を検討しています。命を守るという上では、先ほどの浸水想定の見直しと併せ、国、地方自治体、事業者が連携した住民の広域的な避難、救助の時系列的な行動計画（タイムライン）を策定します。

被害を回避するという点では、応急活動や復



多くの建物が濁流にのまれた平成17年の台風14号水害。その後、防災計画も見直された（9月6日午後2時半ごろ、亀井橋から両富方面を撮影）

旧、復興を行うために何と言っても防災関係機関、公益事業者が機能しないといけません。そのための業務継

防災・減災を考える
シンポジウムから――

統計画（BCP）を作成して日ごろからそれを実践し、企業のBCP作成も進めています。

避難計画の策定や訓練などを含め、ソフト、ハード両面を進めていかなければ、生命、財産は守れないと思います。災害は夜間や休日に発生するところとしても被害が大きくなります。それを念頭に置いて、日ごろから態勢を整えていく必要があります。

これは行政をはじめ関係機関だけでなく、住民の皆さんも心づもりをしていただきたい。いざ災害があった時に何をするかを日ごろから考えていただければ幸いです。